

令和 7 年議会報告会 ご意見・ご質問

事前アンケート

<ご意見>

●小学校統合について、早急に話を進めて欲しい。学年で 1 名のケースがあると聞くが、それでは人間関係や集団生活が学べない。

●岩島地区では来年度の新 1 年生が 1 人しかいない。この状況で学校教育がきちんと機能するのか、子どもの育成に問題が無いのか懸念している。

いろいろな場面で現状維持が出来なくなっていくのは仕方ないが、きちんと議論されているのかが不明瞭に感じている。当事者意識を持っての議論を望む。

●少人数のためクラス活動もままならない状況があると聞く。

学区内の登校が厳しく町外へ引っ越しする方もいる。町の人口減少にも影響がある。

町内なら学区外でも通学できるよう議論して欲しい。

●小学校の統合がされていないが、来年度の新入生も少ないと聞いている。子どもからすれば 6 年間クラスに友達が 1~2 人しかいない状態で授業や給食やクラブ活動をしていかなくてもならないのは不安でいっぱいだと思う。

統合がすぐに実現しないのであれば、町内の人数の多い学校に通わせることも考えて欲しい。正式に統合されるまでのお試しになるのではないかな。

入院可能な小児科・産科が町内に無いのも致命的。すぐに対応出来る医者が近くにいないと安心して出産には挑めない。

●子どもが安心して学べる環境ではない。人数が少なくて友達とのコミュニケーションを取れず人間関係に悩む将来が見える。思春期前である小学校から統合をして欲しい。

●少子化により「ひとり学級」の可能性があると聞いた。「学校選択制」や「例外的な就学許可」等の特例が必要では。ひとり学級は、マンツーマン指導が受けられるメリットもあるが、子どもの体験などはデメリットがある。

●自然、歴史、文化を後世に繋ぐためには子どもたちに郷土愛を持ってもらう必要があり、幼少期に育まれた環境や友人関係が郷土愛につながる。

同級生が 1 人や 2 人ではコミュニケーション力に不安が残り、そんな環境での子育てを望む親はいない。町外へ引っ越してしまうケースにもつながり、子育て世代や若者世代の人口減少を加速させる。学校に関する課題にいち早く取り組む必要がある。

●町内の子ども数が急激に減っていることに強い危機感を感じる。

来年入学する知り合いのお子さんが、同級生がひとりもいないと聞き衝撃を受けた。引っ越しも考えているとのこと。学校がなくなれば若い世代はさらに町をはなれ、地域の活力が失われていく悪循環に入っていく。

「この町で子どもを育てたい」と思える環境づくりを最優先に取り組む時期と思う。行政と地域が一体となって取り組む姿勢を見せていただきたい。

●来春小学生になる子が、クラスメイトがいない事態らしい。子どもを中心に考えるなら友達と接する機会を与えるべきで、人数の多い学校に入れるように、柔軟に対応した方が良いと思う。

●小学校は統合した方が子どもたちのために良いと思う。少人数のクラスはかわいそう。

●①坂上小学校跡地にトイレ建設が進んでいるが、10 年前と状況が変わっているので再検討しても良いのでは。また個人的には、いわびつ荘移転。災害備蓄品倉庫が利用価値がある。

②来年岩小 1 年生が 1 名しかいない。自分の居住地域で子どもが安心して過ごしていけることも大きなメリットであり、地域推進委員などの協力を得て学校・地域でサポートして行ければ良い。

<議会からの回答>

◆総務建設常任委員長

総務建設委員会としても学校統合問題や地域行事の担い手不足など身近なところでの影響が予想され、非常に深刻な状況と認識している。

少子化問題はひとつの形で解決できるということではないと捉えている。住民の方も一緒に問題意識を持っていただき、行政側、我々議会側も危機感を持って、若い世代が働きやすい環境を作っていくことが大事なかなと思う。また、若い世代の方が安心して住める住宅の問題、空き家の問題、少子化の問題にも委員会であたっていく。

地域での教育、交流の拠点づくりも大事なかなと思っている。

若者の定住については少子化と関連しており、行政的にもひとつの課でやるということではない。定住・少子化の問題についてもいろいろな所管課の横のつながりが非常に大事になってくる。

議会の委員会でも若者軽減と少子化については関連性があると考えている。
まず若者の住宅の取得や改修に対する支援、雇用の確保が大事なと思う。

坂上の拠点について、デマンドバスの方法など路線の再編が進められている。当時予想していたバス停も再検討を行っているということである。

◆文教厚生常任委員長

現在子どもの数が極端に少なくなっており、複式学級となるクラスも出てきている。教育環境の維持や子どもたちの学びの機会を確保するためには、統合の検討は避けて通れない状況である。町執行部でもようやく協議が始まってきており、審議会への諮問や方向性の提示、町長からも前向きな姿勢が示されていると思っている。学校教育課でも統合を前提として、今後の環境づくりを検討しているとの回答を得ている。

産科がないことについて、県内でも産科の問題は大きく取り上げられている。町としては出産に係る宿泊費の補助などの支援を行っている。サポート体制を強化していっているが、今後の状況を見ながら見直しをしていくことも必要かと思っている。

委員会としては、学校統合を早急に検討するよう要望していくと共に、産科・小児科の医療体制の充実についても引き続き要望していく。

今までは、学校統合などについて保護者の方からの声が出てこなかった。声があれば私たちの力になるのでご協力いただきたい。

【町】

小学校統廃合・教育環境について

町内小学校はいずれも小規模校であり、少人数によるきめ細かな指導が可能である一方、一定規模の児童集団の確保や教職員配置の面では課題が生じています。

現在、町執行部及び教育委員会において、児童数の推移、教育環境への影響、施設状況等の基礎データ整理を進めています。

通学区域制度・就学先変更について

当町では、地域との関わり等を踏まえ、居住地の大字を単位として通学区域を設定しています。地理的条件、身体的理由、いじめ対応等の特別な事情がある場合には、就学先の変更等を可能とする例外的な措置も定めています。具体的な適用可否については、教育委員会において協議のうえ決定しています。

産科・小児科医療体制について

郡内に産科医が常勤配置されていない状況を踏まえ、町では町外医療機関での出産時における宿泊支援制度を実施しているほか、妊婦のための支援策を検討しています。

坂上地区拠点整備について

デマンド型バスの運行区域拡大により、乗換拠点の必要性が相対的に低下していることから、坂上地区拠点整備計画については、現行施設の活用や整備規模の見直しを含めた再検討を行っています。

議会報告会

<質疑・応答>

●東吾妻町での観光施設の不祥事において、当人は懲戒処分ということで退職されたようだが、議会の皆さんにいうことではないかもしれないが、刑事告発は。以前の飲酒事故は交通違反ですから警察で処分をされているが、そういう不祥事に対して町の姿勢が甘いんじゃないかと思っている。町の執行部と議会は車の両輪なので、しっかりやっていただきたい。意見です。

意見を真摯に受け止めて、議会としても町の方にお繋ぎさせていただきます。

【町】

当該事案については、事実関係を確認したうえで、地方公務員法に基づき懲戒処分を行いました。刑事告発の判断については、行為内容、証拠関係、関係機関との協議状況等を踏まえ、総合的に判断しています。あわせて、内部管理体制の点検及び職員研修の実施など、再発防止に向けた対応を行っています。

●こども園も人数が少なくて、坂上は来年新入園児も1名ということである。統合とかはないのか。

まだこども園では話が出ていない。そういった声をいただくと議会・委員会としても視察や現状を見させていただききっかけになる。委員会でも自分たちだけで考えて、あまりアウトプットしていない状況であった。今こども園の話をいただいたので、今度の委員会の際こども園について議論できる。子ども1人では子どもの遊びが出来なくなってしまうのは親として心配である。

通学バスの問題もある。正直お金がすごく掛かるので、すべて連動してくる。

問題提起があると委員会でも意見交換をしていくことも出来る。

地域性もある。小さい子どもさんなので移動することが大変なこともある。この辺も考えながら進めていきたい。

こども園だと年少・年中・年長さんの3クラスあるんだと思いますが、年中さんと仲良くしてもらうことが1番大事かなと思う。

岩島でも小学校の新入生が1人になってしまう。基本的には岩島の小学校に入学するのがルールだが、特別に原町や太田に通えるように許可することなくはない。ただ来年だけ

特別にするか、継続するかさまざまなことを考えなければいけない。前向きな形で検討していい方向になればいいなと考えている。

ちなみにこども園の人数だが、3・4・5歳児含め、あづま20名、太田29名、原町63名、岩島は3歳4名、4歳6名、5歳2名、坂上は3歳5名、4歳5名、5歳3名となっている。やはり今後統合とか見直しが必要かなと感じている。

【町】

現状において、こども園の統廃合に関しては、具体的な検討には至っていません。園児数の推移や保育・教育環境の実態については、継続して把握を行っています。

●太陽光発電の土地の買収や施設の建設が非常に多くなっている。東吾妻町の現状もあまりにも多くなりすぎて景観に相当影響を及ぼしていると思う。

高山村では太陽光発電に関する条例が非常にしっかりしていて、近隣300m以内の住民や事業所の許可が無いとだめとか、行政区の了解がないとだめとか、懇談会みたいなのを開いてその報告書がないとだめという形になっている。

東吾妻町はひょっとすると太陽光業者のターゲットになっている気もする。美しい東吾妻町を守ることは重要なことだと思う。現状でも、区長も知らない、農地適正化委員の私も知らないうちに建設が決まったりがあるような気がしている。

条例に①区長の了解を得ること②行政区の話し合い この2つが条例にあればある程度抑制になるんじゃないかと思っている。

議会としてどう考えているか。

太陽光発電については再生可能エネルギーの中では最も有力な選択肢になっているが、さまざまな問題点・課題があることが報じられている。

農地であれば、町の農地委員で審議会でだめなものはだめ良いものは良いという形で進んできた。今は農地が荒れて見直しされてきた。町では太陽光について結構前向きに近い形で進めてきている。中之条町は自ら中之条電力という会社を持って開発しているので、通常の農地に関しても前向きな形で進めている。高山の話は逆で、現在はブレーキを踏む形になっているようだ。問題なのは、家売って出ていく人が、荒れた農地を町外の業者に売って太陽光発電とかになる形がある。

個人的にはメリットもあると思う。フェンスを設置することで鳥獣の進路を妨害することにもなる。

最終的な判断は個人の所有者の判断になるので、町で規制といっても開発をどうするか、高齢化による耕作者の減少とか、議会としても今後の方針を考えていかなければならない。

農地の場合だが、今までは、条例とかの規定が優しいから穴場とみられていた。太陽光の事業主が町民で申請をあげた場合は通る可能性があるが、事業主が我が町でない場合、制限がかかるようになった。ただし大規模な開発などは県の評価だとかもあるので難しいところもあるが、ご意見の意図は十分わかったので、所管の総務建設委員会で検討していきたいと思う。

【町】

発電出力 30kW 以上の太陽光発電施設を設置する場合には、「東吾妻町豊かな自然環境の保全及び利用の手続きに関する条例」に基づき、必要書類の提出を求め、内容確認および審査を行っています。当該条例に基づく手続や運用状況、町内における設置件数については、継続して把握しています。

なお、申請については町内事業者・町外事業者を問わず受け付けており、審査基準に差異はありません。

●太陽光を規制する条例は東吾妻町にあるのか。無いならば他県の内容などをベースに作ればいいと思う。ある日突然家の隣に太陽光が出来ちゃったというようなことを規制すべきじゃないかと思う。議員の皆さんも分かって放っておくことはしないで進めて欲しい。

少子化問題も5年後10年後どうなっているか予測が出来る。問題点を把握して町にやらせるのが議員の仕事だと思う。

中之条町は温泉地や観光があってビエンナーレも客観的にみて認知されていると思う。中之条と比較するわけではないが、農産物の生産高は東吾妻町の方が大きい。そういった特徴を県や地域に発信していかないと、家を作る補助しますといっても若い人が住んでくれない。出来れば農産物関連で東吾妻町の特徴を出せるような動きを農協と連携して作って欲しい。

優先順位を付けて、やりやすいものからひとつずつ進めていただきたい。

太陽光発電に関する条例について、「東吾妻町の豊かな自然環境の保全及び利用の手続き等に関する条例」というのがある。美しいふるさとの景観や地域の暮らしに著しい影響を及ぼさないようにする条例です。

農産物加工・6次産業等については、これまで委員会や一般質問等で説明・提案してきた。ふるさと納税等に関連し農産物のブランド化に大きな可能性があると思っている。問題意識を共有し積極的に活動していきたい。情報発信については、杉並区にいて農産物の販売をしたり、町内での販売先等を模索していると思う。簡単ではないが6次産業化に向けて進めていくことが大事かなと思っている。

議会ではグループワークを行っている。少子化の件だけでなく、それぞれ興味のある分野に特化して視察等を行い、うちの町に活かせるものはないかといった活動である。現在はみ

んなで勉強しているところだが、まとまれば町へ提言を行おうということである。今後の活動内容は議会だよりなどで出ると思うのでそれを見ていただけたらと思う。

グループで1年かけて特化して調査したテーマについて、8月には執行部と意見交換会を開催しました。きめ細かなさまざまなテーマを問題として取り上げ、各議員とも取り組んでいる。

農業関係ですが、東吾妻町の農業産出額は95億円ある。昭和50年頃の旧吾妻町はミョウガ・ラッパ水仙・コンニャクの生産額が日本一であったが、現在は、高齢化、作物の病気などによりわずかになってしまっている。麻は産出額は少ないが品質は恐らく世界の品質であろうと思われる。

農業振興を図ることについて、農業従事者の高齢化が進み、経営の安定も難しいということがある。農協を中心に花が多くなってきており、JA吾妻での取扱い額が年間4億円ほどある。また、ズッキーニの栽培にも力を入れている。米については、萩生でブランド米があるが、一般には流通していないため、ブランド化は難しいと思われる。

最近問題になっているクマ対策にも、遊休農地や耕作放棄地の解消は有効であり、行政と共に取り組んでいきたいと考えている。

【町】

太陽光発電施設の設置に関する制度について

発電出力30kW以上の太陽光発電施設を設置する場合には、「東吾妻町豊かな自然環境の保全及び利用の手続きに関する条例」に基づき、必要書類の提出を求め、内容確認および審査を行っています。当該条例に基づく手続および運用状況については、継続して把握しています。

農業施策の基本的な位置付けについて

町では、第2次総合計画に基づき、農業分野において担い手確保、農地の有効活用、生産性向上等を基本施策として位置付けています。具体的な施策の内容や事業の実施については、計画に基づき関係機関と連携しながら進めています。

●議会だよりの中で、EV自動車の充電器について記載があったが、東吾妻町の2箇所ともつくるのか。ナビに2箇所表示されるがそれを頼りに来た人が使えなくては困るのでは。ぜひ予算化して設置をお願いしたい。

道の駅は業者が決まっており、今年中には設置できだろうと回答を得ている。
役場庁舎の方はまだ未定。担当課の方へ早急に確認する。

【町】

役場本庁舎に設置されている EV 充電設備については、設置後 10 年が経過し、保守契約期間が終了していることから、現在は使用できない状態になっています。

今後の維持管理方法や更新の可否については、必要となる費用、利用実績、設置効果等を整理し、関係部署において検討を行っています。なお、道の駅に設置されている EV 充電設備については、再運用に向けた準備を進めています。

●農業をやっている立場から、この町で農業が担える役割は間違いなくあると思う。子どもの減少やこども園・学校統合で出来た空洞を農業を使って埋める等、包括的に考えなければならぬ気がする。

長期的な視点に立った目標・ビジョンが大事だと思う。それがないと定まってこなかったり、散らばって諦めてしまうことも出てくる。未来図みたいなものをつくっていただいて、それ住んでいる人たちと共有出来るといいと思う。個人的には大きなビジョンや目標に期待しているし、自分事として関わっていききたいという気持ちはある。

ビジョン・計画、非常に大事である。行政もしっかりやっていると思いますが、我々もいいアイデア・知恵を出していけるように委員会として進めていきたいと思っています。

うちの町の特徴を活かす進め方をしていく必要がある。うちの町の特徴は昔から農林業である。それをもう一度復活させるというのが方向性のひとつとしてある。そのためには後継者の問題もある。去年は 5 人後継者が入ってくれたが、どうやってこの 5 人に続けるかと併せて、町のビジョンがどういうふうな方向で、何を大事に、何を中心にやっていくかという所を議会としても進めていきたいと思う。

【町】

町では、「東吾妻町第 2 次総合計画」に基づき、町政運営を総合的かつ計画的に進めています。農業分野についても、同計画において、担い手確保、農地の有効活用、生産性向上等を基本的な施策の方向性として位置付けています。

具体的な施策の内容や進め方については、計画に基づき、関係機関と連携しながら取り組んでいます。

当日アンケート

<自由記述欄でのご意見>

●質疑応答で出ていた、オンラインの議会アンケートの募集が町報に出ていることを、もっとわかりやすく載せてほしい。公式LINE 事業が始まったら、そこにも町や議会に意見を言えるフォームのようなものを作ったらどうか。
また、議会報告会をLINE でライブ配信してもっと多くの人に関心を持てるようにしては。

【議会】公式LINE は1月下旬から開始される予定ですので事業進行状況を確認しながらさらに改良を加えて、町民の方の使い勝手が高まるように進めてまいります。

【町】

議会報告会につきましてはY o u T u b eを活用した録画配信を行います。
ライブ配信につきましては、今後の検討事項とします。

●今日出た小学校の入学について。渋川市では人数の少ない伊香保小、小野上小については、市内在住であれば希望すれば入学できます。この場合、送迎は保護者の責任においてだと思います。それなら、バス等お金の心配をしなくても大丈夫なのでは？と思いました。（内容が違っていると困るので確認してみてください。）

【議会】渋川市の小規模校への入学に関するご意見についてですが、入学要件や送迎・費用負担の取扱いは自治体ごとに異なるため、まずは渋川市の制度内容を正式に確認する必要があります。制度の仕組みや保護者送迎の考え方など、正確な情報を把握したうえで、本町としての今後の検討材料として参考にしてまいります。

【町】

当町では、地域との関わり等を踏まえ、居住地の大字を単位として通学区域を設定しています。地理的条件、身体的理由、いじめ対応等の特別な事情がある場合には、就学先の変更等を可能とする例外的な措置も定めています。具体的な適用可否については、教育委員会において協議のうえ決定しています。

●他のまちおこしがうまく進んでいる地域との勉強会等を実施したりすると、新しい方法等を知れる機会があると思います。

【議会】議員個々の日頃の調査に加え、これまで委員会ごとにテーマに沿って先進地域への視察研修を実施してきたところです。

【町】

町では、事業検討や制度運用の参考とするため、必要に応じて他自治体の取組事例に関する調査や情報収集を行っています。

●産科について。自分が出産の時、前橋までの運転に大きな不安があった。ホテル代もよいが、陣痛時、出産時にタクシーを呼んだ場合の補助があるとよいと思う。周囲に頼れる親族がいない、夫が仕事でいないという人が安心して産院までいける手段を確保してほしい。（産科がないならせめて）

【議会】ご提案の「陣痛時・出産時のタクシー利用への補助制度」につきましては、

- ・親族の支援が得られない方の移動手段の確保
- ・緊急時の安全な搬送
- ・妊産婦の精神的負担の軽減

といった観点から有効性のあるご意見であると受け止めております。ただし、制度化にあたっては費用面や運用方法の整理など検討すべき事項も多いため、今後の子育て支援施策を検討する上での貴重なご意見として、行政と共有し議論を深めてまいります。

【町】

郡内に常勤の産科医が確保されていない状況を踏まえ、町では、町外医療機関で出産する場合の宿泊費助成等の支援制度を実施しています。また、妊産婦の搬送体制については、関係機関との連携のあり方について、情報収集を行っています。

●町でさまざまな事業を行っているが、最終的に下ろす段階、宣伝方法、案内の仕方など（HP・チラシ・サービス対応・デザインなど）にセンスがないと感じる。ブランディングもうまくいっていない。内容、やっていること、今あるものの魅力をもっとうまく伝える必要がある。移住者、若者は、例えばHPを見て分かりづらい、古風、センスがないと思えばもうその時点で移住の選択肢から外すと思います。デザインをどのようにしていくのか、良い業者を選定していかないと、東吾妻町にはセンスがないというイメージが定着してしまうと思います。

【議会】いただきました厳しいご意見、ご指摘を真摯に捉えて、今後行政側と連携し改善に努めてまいります。

【町】

町ホームページについては総務課が所管し、掲載内容の更新や管理を行っており、チラシ等の広報物については、各所属がそれぞれの事業内容に応じて作成しています。

情報の伝え方や見せ方は、町の印象や施策の伝わり方に影響する重要な要素であると認

識しており、各媒体の運用にあたっては、所管部署において、情報の正確性や掲載内容の整理を行いながら対応しています。

●東吾妻町といえば・・・というものがない。町民間でも意見がバラバラなのでアピールもできない。東吾妻町といえばコレ！と町民全員が言えるものがあればいいなと思います。子どもたちの遊べる場所、機会を町全体でつくってほしい。原町ばかりでなく、各地区で交代とかでやれるイベントとかあればいいなと思います。子どもの友達の家が遠く、近所の子で遊ぶというのがなかなかできなくなっているのです。（田舎なので）

【議会】町はこれまで歴史文化や食文化を基にしたテーマであったり、自然環境を活かしたイベント等進めております。まだ認知度が足りない面があれば引き続きPRに努めてまいります。

【町】

町内には、地域ごとに歴史・文化・自然・食など多様な地域資源が存在しており、町としては、これらの状況把握や情報整理を行いながら、町民の皆さまに分かりやすく伝える取組を進めています。子どもたちの遊び場や交流機会については、各地区の実情や施設の状況等を踏まえ、関係部署において情報共有を行っています。

町政懇談会等の場を通じて寄せられるご意見については、関係部署において情報共有を行い、必要に応じて既存業務の運用に反映しています。

●東吾妻町太陽光建設条例を具体的に策定していただきたい。

【議会】町には「東吾妻町の豊かな自然環境の保全及び利用の手続き等に関する条例」があり、自然環境を守るため適用太陽光発電設置規模は30Kw/h以上で対応しております。

【町】

発電出力30kW以上の太陽光発電施設については、「東吾妻町豊かな自然環境の保全及び利用の手続きに関する条例」に基づき、必要書類の提出を求め、内容確認および審査を行っています。

太陽光発電施設の設置が増加する中で、規制のあり方や制度のあり方についてのご意見が寄せられていることは承知しており、現行条例の運用状況や設置状況の把握に加え、他自治体における制度運用の状況についても情報収集を行っています。

●たくさん可能性を持った町だと思います。前向きで大きなビジョンのもと、「20年後視察を受けるような町づくり」に取り組んでいただきたいと思います。

【議会】20年後のビジョンを意識して取り組んでいくように、ご指摘の点について議員間で共有していきたいと思います。

【町】

町のまちづくりに関する基本的な方針については、「東吾妻町第2次総合計画」において整理されています。

総合計画は、人口動向、産業構造、生活環境など町を取り巻く状況を踏まえ、中長期的な視点に立った町政運営の基本的な考え方や施策の方向性を示す計画として策定されており、町の施策や事業は、原則として、この総合計画に基づき実施されています。